

今年は戦後80年

被爆証言 講話会

入場
無料

申込不要
会場に直接
お越しください

・長崎被爆者による講話

講話者：橋本 富太郎さん

(公益財団法人長崎平和推進協会)

1回目 7月12日(土) 午前9時30分→正午
令和7年 (開場午前9時)

会場：土崎みなと歴史伝承館

・土崎空襲体験者による 講話と映像上映

講話者：伊藤 津紀子さん

(土崎港被爆市民会議)

2回目 7月13日(日) 午前9時30分→正午
令和7年 (開場午前9時)

会場：秋田市役所3階 センターズ洋室4

同時
開催

長崎原爆写真パネル
土崎空襲写真パネル展示

写真：松山町の高台から城山国民学校を望む
長崎原爆資料館提供 [撮影：林重男]



●会場のご案内

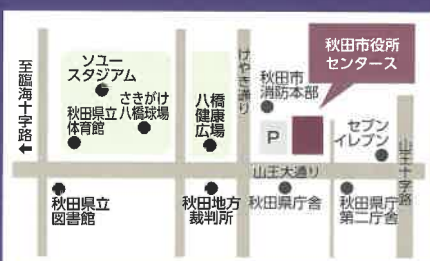
土崎みなと歴史伝承館

秋田市土崎港西三丁目10番27号



秋田市役所

秋田市山王一丁目1番1号



●問合せ 秋田市企画調整課 国際・都市間交流担当
TEL 018-888-5464

主催 秋田市

協力/公益財団法人長崎平和推進協会、長崎原爆資料館、土崎港被爆市民会議、CNA秋田ケーブルテレビ

後援/秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、平和首長会議、日本非核宣言自治体協議会、秋田魁新報社、朝日新聞秋田総局、河北新報社、毎日新聞秋田支局、読売新聞秋田支局、日本経済新聞社秋田支局、時事通信社秋田支局、共同通信社秋田支局、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、エフエム秋田

被爆証言 講話会

昭和20年（1945年）8月9日午前11時2分、長崎市に投下された原子爆弾は、一瞬にして都市を壊滅させ、幾多の尊い生命を奪いました。

また、ここ秋田では、終戦前夜の8月14日から15日未明にかけて、土崎地区に1万2千発を超える爆弾が投下され、この空襲は「日本最後の空襲」と呼ばれています。

秋田市は、このような悲劇を二度と繰り返してはならないとの思いから、体験者の講話や原爆被災写真・土崎空襲資料の展示を通して、その事実を次世代に語り継ぎます。



平和祈念像 作：北村西望 [撮影／市職員]



土崎空襲で亡くなった児童が着ていた学生服
(右脇腹(赤い布部分)から右肩甲骨へ爆弾の破片が貫通)



松山町の高台から浦上天守堂方面を望む
長崎原爆資料館提供
[撮影／林 重男]



浦上天守堂
長崎原爆資料館提供
[撮影／石田 寿]



土崎空襲被爆倉庫(移設前)

講話者紹介



・長崎被爆者

橋本 富太郎 さん
(公益財団法人長崎平和推進協会)

被爆当時、1歳11ヶ月で爆心地から南に4kmの自宅に母と居たが記憶は無い。両親は、被爆体験記を記録として残してくれた。私は、中学時代から、種々の病気やケガを体験してきた。私の身体には被爆の記録がある。これらのことを通して、平和の大切さ、戦争の酷さを伝えたい。



・土崎空襲体験者

伊藤 津紀子 さん
(土崎港被爆市民会議)

土崎空襲があった時、私は4歳で、自宅にいました。戦火が迫る中、防空壕から高清水の丘まで走って逃げ、その時の凄惨な光景を今でも覚えています。現在は土崎港被爆市民会議の一員として、自分の空襲体験や戦争の悲惨さを次世代へ伝える活動を行っています。